

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 1 区分

【発行日】平成26年6月19日 (2014.6.19)

【公開番号】特開2013-233517(P2013-233517A)

【公開日】平成25年11月21日 (2013.11.21)

【年通号数】公開・登録公報2013-063

【出願番号】特願2012-108223(P2012-108223)

【国際特許分類】

C 0 2 F 11/14 (2006.01)

B 0 1 D 29/17 (2006.01)

B 0 1 D 29/25 (2006.01)

B 0 1 D 29/37 (2006.01)

B 0 9 B 3/00 (2006.01)

B 0 1 J 20/24 (2006.01)

B 0 1 J 20/22 (2006.01)

B 3 0 B 9/14 (2006.01)

【 F I 】

C 0 2 F 11/14 Z A B A

B 0 1 D 29/30 5 0 1

B 0 9 B 3/00 Z

B 0 1 J 20/24 Z

B 0 1 J 20/22 Z

B 3 0 B 9/14 H

【手続補正書】

【提出日】平成26年5月1日 (2014.5.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 1 0 】

具体的には、スクリープレスに圧入する凝集スラリーの圧入圧力を一定時間ごとに測定し、圧入圧力の計測値が予め設定した基準圧力より低い場合、変更後の脱水助剤の供給量が最大供給量に達する時は、凝集剤の添加率を添加率幅だけ段階的に増加させ、圧入圧力の計測値が予め設定した基準圧力より高い場合、変更後の凝集剤の添加率が最小添加率に達する時は、脱水助剤の供給量を供給量幅だけ段階的に減少させるので、圧入ポンプやスクリープレスの複雑な制御を必要とせず、構成が簡素であり、処理量の増加、脱水ケーキの含水率を低減できる。優先的に凝集剤の使用量を削減できるので、コストの削減が可能となる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 9 】

一般的には、流入汚泥の性状が変動し、処理汚泥の固形物量が増加（減少）すると、スクリープレス 20 に供給する圧入圧力が大きく（小さく）なるため、圧入ポンプ 7 の供給量を減少（増加）させる、あるいはスクリープレス 20 内での滞留時間を短縮（延長）

する等の圧入圧力を減少（増大）させるような制御を行う。しかし、高い圧力を発生させる圧入ポンプ 7 や大量の汚泥を固液分離するスクリープレス 20 は大型であり、制御機器の構成が複雑となる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0037

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0037】

C．圧入圧力比較

凝集スラリーをスクリープレス 20 に圧入する際の圧入圧力を測定し、基準圧力 P_0 と比較する。

圧入圧力の計測値 P が基準圧力 P_0 内にある場合は、各機器の運転を現状の状態で維持する。

計測値 P が基準圧力 P_0 より小さい場合は、フローチャートの D へ移行して圧入圧力を上昇させる制御を行う。

計測値 P が基準圧力 P_0 より大きい場合は、フローチャートの H へ移行して圧入圧力を下降させる制御を行う。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 1】

